

特42

460

通小町

7

東京圖書館

三
冊

三
號

四
架

函

音
樂
類

和
書
門

通小町



具多ハ瀬乃比里ノ一夏と發ハ
僧く作復よくハ心を持

ス毎日くハ心を持ハ持タリ

作レ日々モ事ヲ行フル也ト

名々ノ事ヲ行フル也ト

もたしめしめくハ心を持タリ

是の市原のあしはなを

梅の葉の雨を夏に

のうらみしむる女

まのこころを

あはれしはあはれ

物語る

こころのあはれ

地

あはれしはあはれ

あはれしはあはれ

あはれしはあはれ

あはれしはあはれ

あはれしはあはれ

あはれしはあはれ

あはれしはあはれ

あつたてのついでにきつとちつにた
のふ町乃亭も徳の幾もあまなく
又うね女性ふ野公町の幾ぞと思ふ
寝し飯多系路よかこどもちつ乃醉
を昂つちも思ふ作 書ころ草店
と立ちちりく た草ま つく露 まき
し中原のよきね の た 具 と の 入

音とたま南無無雲成お正気が離
生死転読菩提 女上 乃 古 僧 の
とあつたあ同く を 戒 ら つ ま は り
中 僧 の ち あ ま を 終 り
恨し も ち あ り た ま 法 僧 の
いふ あ く は り 法 を 入 れ 其 苦
患 を ま り た ま は り た ま は り

あまの御子一人佛音ありわす
思ふにやむかしのちよきまをく
ふまの三頼の信をてあは僧
乃ちまの御子ありまの御子
里鈴の御子僧ありまの御子
味も御子の御子ありまの御子
清ありまの御子ありまの御子

人の御子ありまの御子あり
月も御子の御子ありまの御子
己も御子の御子ありまの御子
あまの御子の御子ありまの御子
あまの御子の御子ありまの御子
あまの御子の御子ありまの御子
あまの御子の御子ありまの御子
あまの御子の御子ありまの御子

すゝも 望まふ乃 水乃深世

も竹乃杖 月亦初も暗く

はくもふたき 神もさるる

はて雨乃水産 目もかへる

きこも松さうも ちかぬく

もあつたも子 子獨もあつた

乃あつたもさる 杖もさる

ひもあつたもさる 那

もあつたもさる 思

もあつたもさる 月

もあつたもさる 月

もあつたもさる 思

もあつたもさる 思

もあつたもさる 思

乃つてを成して小町の町色は
得も若く佛道ありまろりく

右之本者觀世太夫織部
章句真本令放行畢

正徳六丙申歲弥生

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都二条通御幸町西入町

山本長兵衛



明治十六年九月廿四日翻刻御届
同 年十月 刻成發兌

翻刻人

京都府平民

本田市次郎

上京區第三組上白山町七番戶

定價金七錢

京都專賣書林

北村善兵衛
風月庄左衛門
石田忠兵衛
町田與三吉
佐々木總四郎
細川清助
辻本九兵衛
福井孝太郎
竹岡文助
福井源次郎

村上勘兵衛
辻本定次郎
須磨勘兵衛
遠藤平左衛門
大谷仁兵衛
杉本甚助
大谷玄之助
明田嘉七
笹田弥兵衛
田中治兵衛

菱澤重兵衛
内藤彦一
川勝徳次郎
今井七良兵衛
藤井淺次郎
近藤太十郎
澤田友五郎
西村七兵衛
西村九良右衛門
永田調兵衛

